

平成29年度 第2回  
寒河江市総合教育会議  
会 議 録

平成30年2月20日 開会

平成30年2月20日（火曜日） 平成29年度 第2回寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

寒河江市長	佐藤洋樹		
寒河江市教育長	草苺和男		
寒河江市教育委員	鈴木淳一	國井晴彦	
	高橋まり子	鈴木多鶴子	

○ 事務局職員の職氏名

総務課長	竹田浩	総務課課長補佐	佐藤倫久
学校教育課長	佐藤和好	指導推進室長	山口義博
生涯学習課長	高林雅彦	スポーツ振興室長	鈴木隆
学校教育課課長補佐	國井協一	学校教育課課長補佐	渡邊健一

○ 日程

平成29年度 第2回総合教育会議日程  
平成30年2月20日（火曜日）

午後3時45分 開 議  
ハートフルセンター3階 301会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

- (1) これからの寒河江市の学校のあり方について
- (2) 学力向上について
- (3) その他

4 その他

5 閉 会

## 1 開 会 午後3時45分

### ○國井協一学校教育課課長補佐

本日は、お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、只今より平成29年度第2回寒河江市総合教育会議を開会させていただきます。次第2. 市長あいさつ、よろしくお願いいたします。

## 2 あいさつ

### ○佐藤洋樹市長

常日頃、お世話になっております。今日は、平成30年度当初予算の議会に対する内示会がございました。

委員の方々にも、概要はお知らせしてあると思いますが、議会の方に振興計画の行動計画についても、一緒にご説明をしたところであります。

市として30年度は、第6次振興計画が、平成28年度にスタートして3年目ということでありまして、行動計画自体は5か年計画ですから、28年度、29年度で30年度は中間点になりますので、5か年の目標を形あるものにしていかなければならないという、極めて大事な年だと思っております。従いまして、振興計画、行動計画の着実な推進が考え方として大事であります。

二つ目には、人口減少対策の一層の強化ということにしております。人口減少対策の三本柱、少子化対策、移住・定住対策、交流人口の拡大という、三つの柱でやっておりますが、昨年一年間の人口動態、とりわけ社会動態は移住・定住施策を充実させていただいて、社会動態については、なんとか寒河江市は一年間で見るとプラスの方に転じている結果が出ております。ただ問題は、自然動態の方は中々改善していかないのが実情であります。これまでも様々取り組んできましたが、中々数字の上では結果が付いてこないところがありますから、そういう意味で、引き続き少子化対策などについても十分に力を入れて行かなければならないと思っております。その外高齢化の問題、安全安心の問題、市民生活の問題など多々ありますので、そういう点に意を用いて積極的な予算編成をしたところでございます。各議員に方からは、多くの質問は出ませんでした。中学校のエアコンについて、3年生については昨年設置しているわけですが、2年生、1年生については、いつ頃を予定しているのかという質問がありました。昨年設置しましたが、実際の効果は今年度からですので、状況を見ながら予算や計画を作らせていただきたいと思います。最初、小学校、中学校全部の教室にエアコンを付けると、約10億円かかるということから、小学校と中学校の優先順位として中学3年生教室から設置することにしたわけです。

午後からは、記者懇談会があり、詳しく説明をいたしました。記者の方からはAETに関する質問がありました。小学校の英語教育導入についても関心があるのかなと思っています。そういうことで、我々も国や県などの考え方も踏まえ、地域のニーズ、地

域の教育力の向上に向かって、更に意を用いて予算などを作っていかなければならないということを改めて感じました。

今日は、平成29年度第2回目の総合教育会議でございますので、第1回目、昨年9月の議題であります、ITCを活用した情報教育と生涯スポーツの状況ということで、意見交換をさせていただきましたが、今日は学校の在り方についてと学力の向上についてということで、お話をさせていただきたいと思います。学力向上については当面の大きな課題の一つでありますので、是非今日は限られた時間ではあります、意見交換をさせていただきたいということで、私の方からテーマをお願いしたところでありますので、よろしく願いいたします。

○國井協一課長補佐

ありがとうございました。

それでは、次第3の協議に入りますが、寒河江市総合教育会議設置要綱第3条により、座長を市長をお願いいたします。

### 3. 協 議

○佐藤洋樹市長

はい。それでは、協議(1)これからの寒河江市の学校の在り方について、児童生徒数の現状と推移について、説明をお願いいたします。

○佐藤和好学校教育課長

お手元の方に資料を配布しておりますので、それについて説明させていただきます。

資料1が、市内小中学校の児童生徒数の推移で、小学校が平成35年度、中学校が平成41年度までの推移となっております。その推移をグラフ化したものが次のページに記載されております。資料2と致しまして、平成29年度と平成35年度の小中学校の学校の規模についての資料となっております。資料3については、小中学校の校舎等の建築年数等の資料です。その外に中学校の部活動に関するものとPTAに関する資料になっております。以上の資料の中で、ご協議よろしく願いいたします。

○佐藤洋樹市長

委員のみなさんのご意見をお願いします。

○鈴木淳一委員

ただいまの資料を拝見しますと、減少傾向が顕著となっていると思います。減少の波は住宅建築と関係があるのかなと感じています。過去に、みずき団地を立てた時には、寒河江小学校が少し増加し、ほなみ団地では西根小学校が今伸びている。そして市立病

院近くの住宅増築により、寒河江中部小学校がかなり増えていると感じております。

まだ、この表に反映されていないことですが、新たに東桜学館への入学希望者や山形の附属中に入学希望する者もいるということです。その辺も視野に入れながら考えていかなければならないと思います。また入りたい部活がない等のことから、他の市町村から、寒河江市の陵南中学校サッカー部や陸上部に入部したいということで、入学した方も実際にいらっしゃいました。更に、私の知るところでは、何年か前に陵西中学校に入りたかったという方がいらっしゃいました。バレーボール部が盛んだったということで、相談を受けたことがありましたが、住居の問題で実現しなかったことがありました。その時、地域にアパートがないために断念したそうです。例えばですが、寒河江高校農業校舎跡地やJR高松駅あたりに、人口の変化が起これば、この推移も少し変わるのではないかと考えます。もう遅いかもしれませんが、寒河江工業高校を高松エリアに移転をお願いするとか、新たに専門学校を高松地区に建てるのが魅力となって高松地区に人が、みずき団地やほなみ団地のように変化が起こるのかなと考えております。寒河江市の学校の在り方懇談会が、これまで3回ほど開催されており、その議事録を拝見しますと、中学校の建築に関してのご意見がございました。築48年を経過している陵東中学校をなんとかするのか、または将来の学校をどうしていくのかを考えなければと思いました。私たち委員も、東根の東桜学館と新庄市の萩野学園、西川町の小学校にも見学にまいりました。いずれの学校も、寒河江にはマッチしているのか、していないのかも、微妙だなと思い、近くにいる保護者の方に話を聞きますと、特殊な教育を受けさせたいという希望があるようです。英語に強い子供に育てたいということで、東桜学館の人気の高いのかなと感じて拝見させていただきました。小中連携ということで、萩野学園的なことを考えますと、一番魅力的なのは、子供会への中学生の参加等ということが大きな課題で、今寒河江で問題となっている地域行事への参加で、小学校は盛んなのに、中学生になると部活動で参加しづらいという数値がありますが、萩野学園ではその点がカバーされており、また西川町では、一つの学校に集約されたことで改善されているようですが、私的にはそこまでしなければならないのかなと思いました。先に申し上げたとおり、陵西学区の人口増加について、何がしかの対策で解決していき、どうにかして私的には、3つの学校を維持していただきたいなと考えます。最後に、寒河江市ではいち早く、給食の無料化に向けて取り組んでおりますし、給食費負担で軽減された分を、ご家庭での学習費用へ移行していただきたいと思います。近い将来、前回の総合教育会議で述べたとおり、デジタル教科書の時代がやってくると思います。それにはPCタブレット端末が必ず必要になりますし、それを家で使うとなれば、ご家庭でのインターネット環境整備に月5000円程度の費用負担が生じるという時代になるのかなと思います。必要ないとは思いますが、通学時の重たいランドセルですが、個人ロッカーの整備なども寒河江の学校の特徴として必要なのかなと思います。以上です。

○草薙和男教育長

先程、鈴木淳一委員から出ました、部活の問題というのは非常に子どもたちも、親御さんも非常に興味と言うか、心配している部分があると思います。陵南中学校のように大きな学校だと、いろいろな種類の部活が設定できて、先生たちも多いわけで、ある程度自分の希望するところに入れる。ところが小さい学校は、部活が限られてくる。他の近隣の中学校もですが、人数が少なくて縮小、先生たちも少ないので、部を削減していかないと出来ない。そのようなことを平成41年までの推計で考えると、やはり陵西中学校が激減するわけで、はたしてこのままの体制でいいのかということ、私は適正規模が必要なのではないかと思います。小学校では、12学級から18学級、中学校では6学級程度が必要なのかなと思います。今、3学区3中学校ある訳ですけれども、そのあたりを今後どうのように考えていくかということ、もう少し将来の人数も考えてやっていかなければならないなと思います。

それからもう1点、高松地区に団地をという話がありました。確かにそういう話も聞こえてはきますが、例えば醍醐地区に醍醐団地を造ったけれども、何戸か入ってはいますが、醍醐小学校は段々人数が減ってきてしまっているわけで、どの年齢層の方々が団地に入っていくかということもあるわけでしょうが、高松地区に団地を造って高松小学校や陵西中学校が一時的に増えたにしても、段々年代が過ぎると減ってしまうという状況にはならないのか。醍醐団地の場合は、あまり影響は大きくなかったのではないかと思います。そんなことを懸念することから、学校の適正配置、適正規模を大事に考えて行かなければならないのではないかと思います。

○佐藤洋樹市長

今、鈴木委員から個人用ロッカーの話がありました。ロッカーが整備なった方がいいということですか。

○鈴木淳一委員

私の娘の時は、全部持ち帰りの時代で学校に置いて行ってはいけないとなっていました。今は家庭学習部分だけを持ち帰るようになってきました。重いものを背負って自転車に乗るのは危なっかしいと思います。

○佐藤洋樹市長

そうですね。特に中学生は部活の道具とか、いろいろ山ほど抱えて毎日登校していますからね。資料の数字を見れば、将来的にはいろんな形が出て来るわけですけれども、どの程度になったら検討しなくてはならないのか。教育委員会ではどの時点で、計画作りに取り組んでいかなければならないと考えているのですか。

○草苜和男教育長

今、懇談会をやっておりますが、来年度の途中から検討委員会に切り替えて、有識者や多くの方からご意見をいただいて、また地元での意見を聴く会なども持ちながら、一定の答申をいただいた後に、教育委員会で今後どうするか等の方針と計画を立てていく。

それに基づいて、住民への説明もあるでしょうし、具体的に今度学校をどうするか、計画に基づいた動きをアクションにしていくことを考えております。そう長い先のことではないと私は思っています。陵東中学校が来年度創立50周年、大規模改修をやっているとはいえ、そろそろ考えなくてはいけない時期に来ているということも併せて考えると、懇談会の中でも、市内3中学校でやってきましたが、生徒数から考えれば3中学校では、人数のバランスに歪があるのではないかとということもあって、2つの中学校体制へという話も実は出てきておりました。

○佐藤洋樹市長

最初に出来た時、バランスとれて作ったのですかね。50年経ってバランスが取れなくなったのでしょうかね。

○草苜和男教育長

最初は、今程の差はなかったと思いますが。

○國井晴彦委員

中部小、陵南学区あたりですと、空き地があればいつの間にか、どんどんアパートとか住宅が建っていく。他方、陵西学区あたりですと分譲地になりそうな用地はあっても全くそのような動きがない。市場の流れは非常に大きいと思いますし、それに対してどうやって学校づくりをしていくかは非常に難しいと思います。思い切って2つの学区にと思いますが。

○佐藤洋樹市長

一極集中ではないですが、街の中に集中していくという傾向が寒河江市でもあるのかもしれないですね。そういう意味では、陵西学区が段々過疎化してくるという傾向があるので、そこら辺は色々な対策を講じて、歯止めをかけるということをやらなければいけません。先程、國井委員が言われたように流れというものもあるわけで、全部が行政主導にはならない。民間の経済原則とかニーズに対応した住宅の整備が出て来るとすると市街地に集中してくるという傾向は否めないところがあると思います。今後の人口予測をしたらこういう結果になりますから、陵東と陵西を一緒にすることも考えなくてはならないのかもしれないですね。小学校の方もそういう意味で、子どもが少なくなる学校が結構あるので、その辺が難しいところですね。

○草苺和男教育長

一番は、小学校だと思います。中学校よりも小学校の方が地元の人は無くしたくないとの思いは、どこも同じだと思います。幸生小学校の8人は将来まだ減るのですが、三泉小学校も減ってきますし、醍醐小学校は完全複式になるということから考えて、地域の方や保護者の方からも私もいろいろな場面で、お話しいただくことがあります。今の減少を何とかしてほしいという声は少なくないと思っておりますので、小学校も子どもたちがしっかり学べる適正な規模というのがあるのかなと思っております。

意外と減らないのが、西根小学校ですね。何十年前から300名前後です。

○高橋まり子委員

住宅の問題も関連するでしょうね。

○草苺和男教育長

そうですね。

○鈴木淳一委員

結婚しても同居しないのが今の流れですので、小学校を選んでからアパートを選んでいる人も実際あるそうです。

○高橋まり子委員

私のスクールコンサートで小学校をまわりますが、小規模の学校の印象がいつもすごくいいです。ですから小規模の人数が少ない学校の良さというものが、確実に何がしか存在しているとは思いますが、公立の小学校、中学校というのは、自分たちで選ぶことができない。都心のように私立の小規模の良さとか、それなりの学校の特徴・良さというものを生かして選べるのであれば、限られた財源を使って、いろいろな施設に予算を投入していくことを考えると、いろいろおっしゃったことに同意見です。

○鈴木多鶴子委員

私の生まれたところは、陵西学区なのですが、そこを見ますと自然環境の良さとか、地域の協力等すごく感じまして、それというのは都会から見たらなかなかないことなのでそういう良さを生かしつつ、これから学校の特色、応用力とか、体験重視とかをつけるような学校に出来ないのかなと思っております。全国的には、一人一人の能力や個性に合わせた教育、オルタナティブ教育みたいなものが凄く必要とされるご家庭、お子さんがいるということや、なかなか学校に行けない子どもたちも、個性に合わせた教育だと、自分の能力を伸ばせる学校も、他の県ではあるようなので、そういった特色ある学校にしつつ、特認校のような学区以外や県外からも来てもらえるような、教育の

街・寒河江みたいになれば、寒河江の魅力というのはかなり上がると思います。それを  
実現するのは中々大変だと思うのですが、特色ある教育の一つとして、自己表現力を伸  
ばす演劇クラブを作るのもありかなと思います。

○佐藤洋樹市長

他にないですか。

○國井晴彦委員

現実的に人数的には、陵東中と陵西中を一緒にするしかないと思いますが、万が一、  
一緒にすることによって、学校を中心にしたスマートシティみたいな、宅地とかショッ  
ピングセンターとか、一緒になった新しい街を造ることによって、そこに更に人口が集  
まるような新しい街を造っていく。そういうことによって魅力ある、その学校に行きた  
くなるような、統合したことによって、そこに人を集めるようなことを考えていけない  
ものかなと思います。新たに道路を造って魅力ある、今はやりの街スマートタウンみた  
いなものがないなと思ったりします。

○佐藤洋樹市長

そうですね。

○草苺和男教育長

今、鈴木多鶴子委員がおっしゃった、学校の特色を出すということは大事なことだ  
と思います。今の小学校10校、中学校3校の体制であっても、それぞれ特色ある教育活  
動をやってはいるのですが、仮に新しい学校が出来たとしても、この学校はこれが売り  
だというような、素晴らしいところだという特色を出さないと、経営が成り立って行か  
ないのではないかと思います。先程自然的な魅力について話がありましたが、私も同じ  
様に思います。特に陵西学区には、自然がいっぱいある訳で、隣の西川町は学校を全て  
統合しても、学校だけの教育活動ではなくて、閉校なった小学校のところに行って、そ  
こで1日授業や活動をするということをやっていますよね。岩根沢に行ったり、或いは  
大井沢に行ったり、そういう様な地域を生かした、特色ある、そして自然を生かした教  
育活動というのは、仮に一つの統合した学校を造ったにしても、教育活動としては可能  
なのではないかと思います。田代には今度多目的交流館が出来ましたので、そういった  
ところも使いながら、自然を生かしたダイナミックな教育活動が出来るのではないかと  
思います。

○佐藤洋樹市長

そういうことは、極めて大事なことだと思います。公立の小学校などで、私立であれ

ば極めて特色ある教育をして、子どもさんを集めるということを公立学校でそこまで出来るものですか。それをやるのは教育委員会ですからね。学校毎には、一つだけではない訳ですから、少しオープン制にして他からも子どもを集めることが出来れば、地元の子もだけではなくて、プラスアルファの子どもも入って来る。行政もいろいろな形で支援をして、住宅団地を造ったり、あるいは雇用の場を確保したりすれば、魅力あるエリアが出来るのだと思います。そして魅力ある学校をどのように作っていくかですから、公立の小学校をうまく機能させて、造ることができるかどうか。今のうちから取組をしておかなければならないのかなと思います。やはり統合したり、廃止をしたりすると地元ではなかなか大変ですので、プラスアルファの機能を学校に付加をしていかないと、地元の人の中々納得しない。そういうことから、是非特色ある学校を造っていくことで、地域をまとめていくための方策なのではないかと思います。是非検討をしていただいて、これからの学校のあり方を進めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次の学力向上についての話題に入りたいと思います。保護者が期待するのは学力向上ですから、特段に学力が高い学校の特色があれば、それだけで集まってきますからね。大事なテーマですのでよろしくお願いいたします。学力テストの結果についてご説明をお願いしたいと思います。

#### ○山口義博指導推進室長

それでは、お話にありました学力向上に関する配布資料の説明をさせていただきます。

先程の市長の話しにもありましたように、また教育委員会の喫緊の課題である、学力向上に関してですが、市内の小中学校の先生は日々意識をもって、授業に取り組んでいるわけですが、今お渡ししてある資料についてですが、以前にもお渡ししてある物であります。この資料につきましては、平成29年度当初の学力ということで、昨年度履修した学力の検査結果を土台に話をさせていただくことになる訳ですけれども、市内の小中学校の資料であります。小学校6年生、中学校3年生の全国学力学習状況調査の結果、それから小学校5年生、中学校2年生の山形県学力調査の結果に考察と対策を載せてあるところであります。それから最後に、小学校2年生から中学校3年生までのNRT、基礎的な標準学力検査の数値結果をお配りしてあります。資料以外の面からもいろいろ学力向上について意見を出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

#### ○佐藤洋樹市長

是非、皆さんの方からご意見をいただきたいと思います。

#### ○國井晴彦委員

学力向上に関しては、1年以上前からいろいろこの場でも話題になっていることで、

どうかしなければならぬということ、学校訪問のときに、学力低下が問題になっているので、なんとかしなければならぬ、なんとかしてほしいという様なお願いを、校長先生を始め、学校の先生方に檄を飛ばしているような現状だと思います。

私のところの中部小学校では、校長先生始め学校の先生方は十分痛感している。何とかしなければならぬという形で取り組んでいるのは間違いない。しっかり理解して子どもたちに向かって授業に取り組んでいる。ただどうしても、一年ちょっと位ではなかなか厳しいのではないかと。3年位時間をいただければ、必ず成果が出て来るのではないかとこの声もありました。それとは別の考え方ですけれども、これはあるPTA会長がおっしゃったことですが、学力が落ちていることは、学校の先生方とPTA会長や役員には話しているそうです。ただ一般の父兄にはほとんど話が行っていない。寒河江市の子どもの学力がここまで落ちているということは、一般の父兄はほとんど知らない状況のようです。その辺をどこまで、今後知らせていくかを考えなくてはならないと思います。これとは別の考えですけれども、学力はともかく寒河江市の小中学校は、他の市町村に比べると、学力以外の不登校とか諸問題は少ないはずだ。それも数値化してもらえれば、我々の努力も見てもらえるのではないかとこの声もありましたので、この場で報告させていただきます。

私の考えとしては、子どもたちに小学校、中学校を通じて、何のために勉強をするのか。小学校一年生の時の夢は、宇宙飛行士になりたいとか、外交官になりたいとか、弁護士になりたいとかの夢、目標だと思うのですが、そうするためには、小学校1年生では何をしなければならぬか、小学校6年生では何をしなければならぬか、高校はどのような高校に行かなければならぬか、大学はどこに行かなければならぬかの目標を明確に持っていかねばならないと思います。夢はどんどん変わっていいと思うのですが、プロ野球選手は、いつまでも続けられるとは思いません。ただそうなるために、何をしなければならぬかを、小学校の時から考えることが必要なことだと思います。

話は変わりますが、箱根駅伝で4連覇した青山学院大学の原監督は、ただ頑張り、頑張りだけでは駄目だ。目標設定をしっかり持って、そのためにどのような努力をしなければならぬかが大事だということがありましたので、是非、夢を具体化するようなプログラムを子どものうちから、わかりやすく説明して行くことが大事だと思います。

○佐藤洋樹市長

ありがとうございました。

○草薙和男教育長

前にも少しお話し申し上げたかもしれませんが、だいぶ前から寒河江市の学力を何とかしなければならぬと、取り組んできて、昨年あたりは全国にやや近づいてきたかな

と思いましたが、今回の平成29年に行われた結果では、また全国や県と大きく差が開いてしまった。学年によって違うと言ってしまうとそれまでですが、そのようにとらえないで、まだまだ全国レベルを超すぐらいの力を子どもたちは持っているはずなので、そこに力を入れてやっていかなければならないということで、例えば本市の実態は下位部分が多くて、上位層が少ないという傾向があるので、私たち教育委員会では学習補助員を配置して、担任の先生とT&Tでやって、個別に指導員が補助できるような体制を出るだけ取って来て、力を付けるようにしてきましたし、来年ももちろんそうするつもりであります。それから各活動を多く取り入れるとか、あるいは自分の考えをみんなの前で発表する機会を多く設けるとか。そういう授業を何とかしなければならないということは、どこの学校でも先生方も思っていることではないかと思えます。

あともう一つ、校長先生を通して申し上げてきたのは、部活動だけでは駄目なのかな。家に帰っても疲れて何もできないようでは好ましくないのではないかな。もう少し部活動の時間を見直してもらえませんかという話をしたら、ある学校では30分位縮小をして、早く帰らせたという学校もあったようですけれども、その部活動のあり方なども先生方だけではなくて、生徒にもかなり影響があるのかなと思っておりますので、その分家庭での予習復習にまわして、次の日の学習に生かしてもらいたいなと思い、お願いしてきたところであります。もちろん先生方の授業づくりとか授業改善とかを随分言ってきましたけれども、それは根底にあることでありますし、先生と子どもたちがうまくいかない学級では、子どもたちもなかなか安定して授業に専念できない。だから心の通い合う、温かい学級を作ることが基盤にあるなということで、いつも学校訪問した時に申し上げてきたところであります。

○佐藤洋樹市長

他にいかがですか。

○高橋まり子委員

全国学力テストの県の平均とか、小学校間の格差を比べることに、私は非常に違和感を持っています。そもそも学力というのは、人の資質の中の一部であると思いますので、学校の試験は点数ということですが、それは能力の一つだと思うので、先程國井委員がおっしゃったような将来の夢を見ること、その夢見る職業に必要な能力は必ずしも学力だけではない。また別な面からみると、平均は一つのクラスとか学校を取ってみても、特別に知的な学級にすれすれなお子さんも複数いらっしゃるというところや、勉強が得意で良くできているお子さんが少ないという様な、その人の組み合わせがどうなっているかということでも、平均点は大きく違ってくるので、一概に平均とかで、点数を上げるというのは非常に違和感を感じています。言いたいことは色々あったのですが、でも一番大事なのは子供たちが、どう生きるか、どう幸せに生きていくのか

などということを考えた時に、学力だけではない。それは皆さんもちろんわかっているのだと思いますが、大人も子どもも幸せに生きるってことは、どう生きるのか、どういう風にやりたいことをやれているのかとなっていくと思うので、学力だけにとらわれない学校の方針があってほしいなと思うことと、結果的にみんながやりたいことを叶えている、幸せな時間を過ごしている、ということが結果的に学力の向上として見えてくるのであれば、それはそれで非常に良いことだなと思います。

#### ○草薙和男教育長

もちろん学力だけとは考えていませんが、知徳体のバランスは大切だと思います。それは調和ある成長ということで大事だと思います。でも学校が果たすべき大きな役割の一つとして、知徳体と言われるように確かな学力を育むというのは、学校の使命としてあるのだと思います。この全国学力テストは、全国のものですが、それぞれの学校の子どもたちの実態をつかむというのが一番の狙いですので、結果として市全体ではこういう結果です、学校毎見ればこうなんです。だからその実態からすると、果たして自分たちの指導が、これで良かったのかということ、振り返る一つの大きな資料だと思います。これだけ差があるということですから、何かしら私たちの指導が、これでいいのかという反省を加えるべきところの資料として、このテストがあるのではないかと思います。学校によっても違いますけれど。平均なんていうのはもちろん、上があれば、当然下もあって、平均が出るわけですが、でもやっぱり学力をしっかり付けていくという学校の役割から考えて、これだけの実態があるということは、ちょっと看過できないのではないかなということで、校長会なども学校と一緒にあって、何とかしなくてはならない、もっと力を付けなければいけないということでやってきています。なかなか成果は見えてきませんが、学力だけに力を入れているわけではありません。

#### ○佐藤洋樹市長

鈴木多鶴子委員、どうですか。

#### ○鈴木多鶴子委員

やはり先生の話の中で、本当に寒河江の子どもたちの能力を上げてほしいということ、私も常々思っているところなのですが、そういう子どもたちをいかに伸ばすかということが大事だと思います。すごく力はそれぞれ、いろんな基礎力とか応用力とか、通知に出てこない力も持ち合わせながら、子どもたちはいろんな能力を秘めているなど日々感じているところです。その基礎学力も大事だと思いますし、応用力も大事だと思いますが、その中でその子どもが力を出せるのは、どういうことだろうと思った時に、やっぱり安定して生活しているかということが、大きくなっていくのではないかと思うところがあります。子どもが安定しているということは、親が安定しているということも

かかわるのですが、安定した生活を考えた時に本当に、子どもが愛されて認められて育つ経験をしているのかどうか。そして自分の能力を出せるような、落ち着いた体制を作っていたら、もっともっと能力が伸びるのではないかと感じています。そしてまた、小さい頃からの実際のさまざまな体験と言うことも、それが知識とか能力、応用力にも繋がって来ると思うので、学校の現場だけではなく、生涯学習課の方でもいろいろな取り組みをしていますので、その行事が生きる力になる経験の場として位置付けて、考えてやっていくと、また少し変わっていくのかなと思いました。それから学力の根本となる人間力を育てる意味では、子どもたちだけでなく、先生も含めた大人、それから地域の協力も仰ぎながら、人間力が高まっていくような地域のサポートとか、先生も体験できる場があればいいなと思います。それから教育委員会の方でまとめてくださっている資料にもありますけれども、学校の方では個々にあわせた能力への対応というのは、人だけではなかなか難しいと思いますので、ITとか、タブレットとか、そういうものを使いながら、わかる子は更に能力を伸ばしたりとか、なかなかわからない子もITとかを使いながら楽しく学べる、そういう整備なども必要だなというように思っています。

また学校の先生たちが、今ものすごく事務作業が忙しくなっているのも、プリントの方に書いてくださった、他町のような校務支援ソフトの導入による、教員の事務負担の軽減をすることも必要なことではないかと思っています。

最後にもう一つ、中学校の方で本を読む量が少なくなったということも、先程説明いただきましたけれども、やはり小学校の方では読書推進員が活躍して下さっているのですが、中学校の方でも図書館の方に司書みたいな形で、この本どうだとか、子どもたちに合った読書や本を薦めながら、更に応用力とか、探究力とかを育てていく方策があればなと思っています。

○佐藤洋樹市長

予算的なこともありますね。

○草薙和男教育長

タブレット計画ですね。

○佐藤洋樹市長

平成30年度予算で、各中学校単位に部活の指導員をおく事業がありましたね。3名の配置ですね。

○草薙和男教育長

そうです。各中学校単位に1名ずつ配置する予定です。

○佐藤洋樹市長

どの程度活躍してくれるのか。学校の先生はその分、負担が軽減になるということで、本業に力を注げるということですね。先生方の働き方改革みたいなものですね。

○草苺和男教育長

はい、そうです

○佐藤洋樹市長

平成30年度からしていくことにしていますからね。どの程度の効果があるかどうか。効果があれば人を増やすことも考えていかなければならない。AETもそうですけどね。

○草苺和男教育長

先程、鈴木多鶴子委員からありました、安定した家庭生活については、私も同感でありまして、家庭もそうでありますが、学校でもやっぱり子どもたちが本当に自分の居場所とか、みんなに認められて勉強に専念できる学級集団・学校だと、勉強にも身が入るわけですが、いろいろトラブルがあったり、問題があったりするんで、中々勉強に集中できないというのもありますので、安定した学校・学級で生活が出来る、学習活動が出来るということにも、先生方には力を入れてほしいというように申し上げていたところでもあります。それから読書のことが出されましたが、中学生の読書は少ないかもしれませんが、単なる物語だけではなくて、新聞購読の補助も市教委でしておりますけれども、新聞記事についても目を通して、文字文化に触れて学習に活かしていく。そういう活動にも力を入れていかななくてはならないのかなと思います、今年度からやっているわけですが、読書もなかなか中学生あたり読む時間もないのだろうと思いますが、是非そういったところにも力を入れて、やっていきたいと思っております。

○佐藤洋樹市長

一昨日、図書館でビブリオバトルということで、芸工大の学生さんがやっておりました。後ろで見えておりましたが、参加者が少なく子どもたちがいなかったようです。そういう意味で寒河江の中学生はほとんどいない。大人だけだったので、もう少し来てくれたらなと期待しておりましたが、ああいう活動もいろんな取り組みをして、図書館も能動的にいろいろな取り組みをした方がいいと思います。

○鈴木淳一委員

学力の低下についての数値に出ておりますが、私くし的には学習はするのですが、テスト慣れしていない傾向があるのではないかと思います。計算は出来るのに、文章を読むのが面倒くさくて、諦めてしまうという傾向があると思います。

○佐藤洋樹市長

なるほどね。ひっかけ問題がありますからね。

○鈴木淳一委員

それが嫌で嫌で何を言っているのか、さっぱりわからないみたいな感じで、それが点数になって出ているのではないかなと思っています。学力は付いていると思うのですが、問題慣れしていないのではないかなと思います。テストの用紙を見ただけで抵抗を感じているのかなとも思いますし、実際タブレットで、こういう問題が出ると、ヒントみたいなものが画面に出てくるという時代なので、それで勉強するようです。正直、小学校の時点でやらないと、中学校になると部活に走ってしまうので、部活で人生決まる子もいます。推薦でいく子がそうです。ですから学習は、小学校の内からやらしてもらわないと間に合わない。家庭での学習の時間も考えると部活の移動時間も発生しますので、市の体育館で部活をやる場合、交通手段が片道30分往復1時間が移動時間になるので、その辺対策していかないと部活動原則2時間という枠で、移動時間で1時間とられると、1時間しか練習が出来ないということになるので、家庭での学習を一緒に見てあげないと、点数だけではわからないのではないかなと思います。去年までの小学生ですと、爆発的に売れた文庫ドリル3とかで、コミュニケーションをとって、子どもと接していることから一歩踏み込んで、親が学習に携わっていることが多いそうです。今探求型とか言っていますが、発表させることが覚えるきっかけなので、しゃべるコミュニケーションを取りながら、ご家庭でも学習の向上に努めていただきたいと思います。授業を見ている限りでは、先生方もすごく一生懸命でしたので、そんなにダメな子どもはいないのではないかなと思います。

○草薙和男教育長

鈴木委員がおっしゃったように、全国学力テストもそうだし、県の学力テストもそうなのですが、文書がずっと長く書かれてあって、何ページか読んだらやっと問題が出てくるというテストの事ですね。しかも漢字や計算などのA問題は別にしても、B問題になると、本当にいろんな資料や情報を取捨選択して自分の考えをまとめたり、短文で書いたり、試行錯誤しながら一つの結論を導いたりするなど、文章がすごいですよね。先生方の話を聞いていると、中には抵抗があつて最後まで問題を読み切れていないという生徒もいるのかなと思います。

○佐藤洋樹市長

なるほど、そうですね。他に。

○鈴木淳一委員

最後にいいですか。やはり読書ってすごく大切だと思います。新聞の活用もしていますが、国語の教科書の中で、小学校6年間、中学校3年間で読んだ本の題名や感想をアンケート調査していただきたいです。そこで何の読んだかでレベルが変わると思います。我々の年代に、今まで思い出のある本は何かと聞くと、走れメロスが1位に出てきます。その外というとあまり出てこないです。その時読んでいない時期なので、そうした対策として、どういう本を読んでいるのかを調査すると、少し面白い結果が出てくるのではないかと感じました。

○高橋まり子委員

もう一ついいですか。各学校を訪問して、お話を聞いても学習支援員と呼ばれる方を増やしてほしいという意見が多いとお聞きしておりますが、今回の予算でも全く増えなかったということなので、必要な手立てのお子さんには適正な指導をする意味でも、学習支援員の増やすことが必要なのではないかと思えます。各学校それぞれに各地域のボランティアとして、そういう支援をして下さる方を募集していますけれども、市の方としてもハード面だけではなく、そちらの方にも予算を付けて増やすということも、とても必要だと感じています。

○草薙和男教育長

そういう風に計画をして、実質的にそんなに増額はなりませんでしたが、他市町村から比べれば、寒河江市は今回21人を確保しているということは、相当多いです。しかし学校現場ではまだまだ欲しいという要望はもちろん、私たちの耳にも入っていますけれども、これからも計画的に学校独自で大学生ボランティアや、地域の退職した先生方をお願いしているところもあるようですので、しっかりとそこを支援していきたい計画ではおります。

○佐藤洋樹市長

最後に一つだけ、前にも申し上げたと思いますが、この1ページの表を見ると赤いのと青いのがはっきり分かれています。これはなぜでしょうか。

○高橋まり子委員

地位格差ですか。

○佐藤洋樹市長

少人数の学級とか、そういうところは成績がよい。学力が高いのではないかということを感じてしまうような結果になっているので、今日の1番目の議題と相反するようで

す。少人数で行った方が、寒河江市の子どもたちの学力が上がるのではないかというように、感じてしまうようなところがある。一概には言えないとは思いますが、資料中段の県の調査でも大体似たような傾向になっているので、その辺をどのように分析をしていくかだと思わざるを得ないと思いますが、教育委員会ではどのように認識をして対策をしていくのか。学力向上に向けた取り組みをどうしていこうとするのですか。

○草薙和男教育長

私たちも学校の校長先生方に、どうしてだろうねという話を聞いたりするのですが、確かに少人数だということもあります。幸生小学校の場合は一人・二人・多くて四人の対象学年です。平均という点字に妥当性があるかどうかわかりませんが、しかしこれでいくと、醍醐、白岩は、平均より上なのですが、校長先生方が異口同音におっしゃるのは、地域性というのが大きいのかなということですか。

○佐藤洋樹市長

勤勉性ということですか。

○草薙和男教育長

どうでしょうね。

○佐藤洋樹市長

先生の能力は変わらないという意味でおっしゃっているのでしょうかね。

○草薙和男教育長

そうでしょうね。先生方は、学校を見て回っても、特別指導力があって、どうのこうのという、どこの学校の先生方も一生懸命で同じだと思うのですが。

○鈴木多鶴子委員

それに関して、私が感じているところは、やっぱり少ない学校とかクラスだと先生が自分のことを見てくれている、理解してくれている、わかってくれている、応援してくれるという、思い感がすごく強いと思います。子どもって、そうなるともっと頑張ろうとか、そういう気持ちが湧いてくるので、その辺も少しは影響しているかな、と言うところがありますが、大きい学校の先生方も努力して、やってくださっているのですが、それをもっともっと大きい学校もそういう風に、見ているよ、大好きだよ、みたいな感じしていると、もっともっと能力が伸びそうな気がするのですが。それもまた、大きい学校だと先生達の事務作業とかも多くなるので、その辺のバランスも考えながら対策を考えていかなければと思います。

○草薙和男教育長

でも、かつて40人学級、45人学級の時代から比べれば、今はサンサンプルで多くても、25人とか30人くらいのクラスなので、とてもサイズが小さくなったわけなので、先生方が見える範囲で一人ひとり対応できるのは、以前よりは条件が良くなっています。先生方も非常に教えやすくなったはずで、それがサンサンプルの大きな狙いでしたので、だから今の時代、いくら大きい学校であってもクラス単位でみると25人から30人程度なので、私は多いとは言えないのではないかと思います。

○佐藤洋樹市長

地域性と言われるとなかなか難しいですね。

○高橋まり子委員

私たちが学校訪問した時、先生がおっしゃるには、特別なことをしなくても、子どもたちは既に安定しているので、それは保護者だけでなく、地域全体の人達の見守りの力が大きいのかなというように、おっしゃっていました。確かに小学校の一クラスの人数と言えば、そんなに格差はないと思うのですが、地域を他と比べると、この陵西地区はコミュニティが、まだすごくがっしりしている地域かなという違いはあると思います。

○佐藤洋樹市長

そろそろ時間ですかね。他に。よろしいですか。保護者の期待も大きい問題ですから。

○鈴木淳一委員

一生懸命ですよ。

○佐藤洋樹市長

陵西地区が。

○鈴木淳一委員

はい。

○佐藤洋樹市長

見習なければなりませんね。

○鈴木淳一委員

そうなんです。

○佐藤洋樹市長

まだ、話がまとまらない状況ではありますが、予定された時間もそろそろですので、以上で、今日の協議はこの程度に留めさせていただきたいと思います。

#### 4. その他

○佐藤洋樹市長

それでは、次の4 その他。皆さんの方から何かありますか。  
よろしいですか。

#### 5 閉会 午後5時15分

○國井協一学校教育課課長補佐

それでは、長時間にわたるご協議、誠にありがとうございました。  
以上を持ちまして、第2回寒河江市総合教育会議を閉会したいと思います。  
大変ご苦勞様でございました。有難うございました。